静岡 ユースサッカー
THE YOUTH SOCCER
10月1日水曜日
昭和50年（1975年）
昭和49年5月1日第三種郵便物認可
発行所
静岡県清水市サッカー協会
発行人　協会理事長堀田哲爾
編集人　サッカーニュース社
二本木一夫
清水市辻町5丁目1の31
電話(0543)67-1970清水ゴール
編集専用電話66-5282(代)
毎月1回1日発行　1部20円

PEPSI

清水東の二連覇成るか！

高校サッカー選手権大会

70校参加で組合わせ決まる！

▲写真は昨年度の準決勝から

十月四日から始まる五十年度全国高校サッカー選手権静岡県大会の組み合わせが、別表の通り決まった。今大会の参加校は熱海、星陵、引佐の三校が新たに加わって史上最高の七十校。試合は第一次トーナメントが十月四、五、十日の三日間、ブロックリーグ戦が同十二日、十一月八、九日の三日間で行われ、第二次トーナメントは十一月十六日に準決勝、同二十二日に決勝戦が予定されている。会場は、一次トーナメントからリーグ戦までが県下の各高校で行われ、第二次トーナメントは県営草薙球技場で開催される。

◎第1シード
○第2シード
△第3シード

全国高校サッカー県予選第1次トーナメント

【Aブロック】
◎清水東
二俣
浜松日体
清水工
△榛原
浜松工
静岡市商
小笠農
○静岡学園
東海大工
浜松南
静清工
△浜松湖東
相良
熱海
静岡商

【Bブロック】
◎静岡工
沼津工
浜松北
浜松西部
△浜松西陵
農業経営
沼津市立
聖光
○自動車工
富士宮北
韮山
静岡市立
△興誠北
下田高
静三島

【Cブロック】
◎藤枝東
橘
御殿場南
△吉原工業
焼津南
吉田南
磐田商
○藤枝北
三島南
沼津商
△清水商
袋井商
引佐
田松工東

【Dブロック】
◎浜名
静岡東
浜松城北
△焼津中央
沼津工業
中遠園
川根工
掛川西
○東海大一
稲取
三ヶ日
島田商
△日大三島
天竜林業
修善寺工
島田学園
沼津東

少年サッカーの三大タイトルを全清水六年が手中に

第九回全国少年サッカー大会

ヨーロッパ遠征から帰国して以来、第九回全国少年団大会、東日本近県招待サッカー、関西フェスティバルと日本少年サッカー大会の三大大会に出場した全清水六年は見事全大会に優勝。二十二試合を夏休みに消化、実に二十勝一敗一分の成績で終った。

以下それらの戦績。

▼予選リーグ一回戦
八月十七日　大雨
読売サッカー場＝芝
Aコート
全清水4（2－0 2－0）0
高平台なかよし（熊本）

▼予選リーグ二回戦
八月十八日　晴
読売サッカー場＝芝
Bコート
3：50キックオフ
全清水6（4－0 2－0）0
境川サッカー少年団（東京）

▼予選リーグ三回戦
八月十九日　晴
読売サッカー場＝芝
Aコート
2：10キックオフ
全清水9（4－0 5－0）0
愛宕サッカー少年団（長崎）

▼予選リーグ四回戦
八月十九日
Aコート
4：40キックオフ
全清水5（3－1 2－0）1
明徳サッカー少年団（秋田）

▼準々決勝
八月二十日
Aコート
9：10キックオフ
全清水5（2－2 3－1）3
浦和仲町（埼玉）

▼準決勝
八月二十日晴　強風
メーンコート＝芝
3：50キックオフ
全清水3（0－0 3－1）1
全広島サッカー少年団（広島）

▼決勝
八月二十一日
読売サッカー場＝芝
10：00キックオフ
全清水1（0－0 1－0）0
古河サッカー少年団（茨城）

前半、再三のシュートチャンスもゴールをわれず0対0。後半もキーパーの正面やバーに当たり攻めあぐむこと17分、相手バックのクリアーボールを右サイドハーフの柴田ゴール30m附近でとらえ、右足で一人をかわし左足で思い切りよくシュートすれば、ゴール左上につきささり、価千金の決勝点となる。

古河のただ大きく蹴るラフプレーに対し、終始両サイドから、また中央からの頭脳的プレーと冷静な判断を失なわずにゲームを展開できたことが、最大の勝因といえる。

そして全員が大したけがもなく、コンディションの調整もうまくできたこともあげられる。

またここまでくるには清水の組織、運営、各指導者、後援会、育成会、社会人、学校教育関係者等の多くの達の援助と、少年をてようとする基本的構えと、そのつみ重の上にたっての優勝あり、たまたま我々その場にいあわせたとであり、この優勝清水の、また全国の少年サッカーにとってより効果の上がることであることを期待し、将来、彼らが社会人となっても国際的に通用する人間に育つことを夢見ながら閉会式に臨む。

▶全清水四年

▶全清水五年

▶全清水中学一年

▶全清水中学二年

▶全清水中学三年

▶全清水指導者

第五回西日本大会

五タイトルをとる

八月二十三日より三月三十一日まで行われた西日本少年サッカーフェスティバルにおいて全清水は中二、中一、小六年、小五年の五部門に優勝、四年も点差で準優勝した。

清水六年担当小島先生の助言もあり……）

さて、最初の神戸との試合は他人まかせのプレーが目立ち、パスを出した後のプレーができていなかった。この試合の失点はストッパーとスイーパーの連携の悪さをつかれたものであり、そしてキーパーのボールを正面でとるという原則を忘れたプレーからであった。

つぎの香川戦は、香川と苅和との試合を観戦してトップの選手を押さえる必要からストッパーに密着マークを指示した。やはり敵を知ることは敵に勝つことだ。

最終戦の苅和との試合は、前半3－0という差がついたので、後半遠征した全員を出す余裕があった。やゝもたついた面も見られたが徐々に自分のプレーを発揮してくれた。

この最終戦は私に一人一人の力を見抜く目を養え、子どものもっている可能性をもっと引き出せということを教えてくれた。

最後に東海大会（庵原中は高松中を決勝で下し優勝）のため参加できなかった全清水一年の監督浄見先生の代理を、小林先生はじめ他の先生がた、育成会のかたがたのご協力により無事遠征を終えたことをつけ加えておきたい。

全清水中学三年

○神戸戦は着いたばかりで疲れていたため、個人個人の動きが悪く苦戦した。

○城内戦は両者とも動き、パスワークがよく見ている人を楽しませてくれたが惜しくも引き分けた。非常によい試合を行った。

○枚方戦は最終試合のためかハッスルし、一方的に攻めまくり快勝した。

全試合を選手がよくまとまり、個人個人の特徴を生かし戦かったため優勝することができた。

三年生は全清水を中学二年生から始め、約二十試合を引き分け2を含み全部勝ち抜いてきたチームワークと精神力は立派だ。

中学生活における全清水の試合は全部終了した。

全清水中学 神戸遠征を終えて

鈴木敏朗

全清水一年を結成以来、週一回の練習を重ねてきたが、四ヵ月というわずかな期間であり、はっきり言って一人一人の選手の力を把んでいないことと、一年としてのレベル等、全清水一年としての力はどれくらいあるのかこの神戸での試合をやるまで自信は持てなかった。

しかし遠征前数回行った全清水二年とのゲーム練習でかなり一人一人がわかり、そしてかなりの力を持っていることが分ってきたので、個々の力をチームの力にすることができるかどうかが課題だと思っていた。（元全清水六年担当小島先生

さて、最初の神戸との試合は他人まかせのプレーが目立ち、パスを出した後のプレーができていなかった。この試合の失点はストッパーとスイーパーの連携の悪さをつかれたものであり、そしてキーパーのボールを正面でとるという原則を忘れたプレーからであった。

つぎの香川戦は、香川と苅和との試合を観戦してトップの選手を押さえる必要からストッパーに密着マークを指示した。やはり敵を知ることは敵に勝つことだ。

最終戦の苅和との試合は、前半3－0という差がついたので、後半遠征した全員を出す余裕があった。やゝもたついた面も見られたが徐々に自分のプレーを発揮してくれた。

この最終戦は私に一人一人の力を見抜く目を養え、子どものもっている可能性をもっと引き出せということを教えてくれた。

最後に東海大会（庵原中は高松中を決勝で下し優勝）のため参加できなかった全清水一年の監督浄見先生の代理を、小林先生はじめ他の先生がた、育成会のかたがたのご協力により無事遠征を終えたことをつけ加えておきたい。

全清水中学三年

○神戸戦は着いたばかりで疲れていたため、個人個人の動きが悪く苦戦した。

○城内戦は両者とも動き、パスワークがよく見ている人を楽しませてくれたが惜しくも引き分けた。非常によい試合を行った。

○枚方戦は最終試合のためかハッスルし、一方的に攻めまくり快勝した。

全試合を選手がよくまとまり、個人個人の特徴を生かし戦かったため優勝することができた。

三年生は全清水を中学二年生から始め、約二十試合を引き分け2を含み全部勝ち抜いてきたチームワークと精神力は立派だ。

中学生活における全清水の試合は全部終了した。

▶全清水指導者

東海中学選手権大会

庵原中初優勝！

第7回東海地区中学サッカー選手県大会権

清水市庵原中

1
0－0
1－0
3
1－1
2－0
0
1－0
0
3
0－3
0－1
0
3
0－1
0－2
5
1－0
4－0
0
4
0－1
0－3
1
0－0
1－0
0
清水市庵原中
岐阜市藍川中
上野市緑ヶ丘中
名古屋市
日比野中
三重郡明和中
高浜市高浜中
静岡市高松中
吉城郡古川中

今年の中学生のスケジュールから全国大会に藤枝中、東海選手権大会に高松中、庵原中が出場することとなり藤枝中は全国大会準優勝。庵原中が東海選手権大会で優勝、高松中が準優勝とサッカー王国静岡が中学生の部門でも印象づけられた。

庵原中、高松中ともに他県チームとの試合においては中盤を忠実に継ぎ、両サイドから切れ込む基本的な攻撃によって圧勝している。

特に庵原中は全国大会三位の日比野中に対しても戦術的気力的に優っていた。

決勝では静岡同士の早いテンポの鋭い攻撃のかけ合いになり、他県役員団の目を見はらせる好試合が展開された。

後半十四分、庵原中がコーナーキックを得て大多和がゴール前でせり勝ち、こぼれたところを滝が決めてリードした。

庵原中の攻撃の大多和を中心にした守りとFW陣の攻守にわたる忠実に継ぐプレーが印象に残った。

これで浄見監督は第一回（一中）の優勝に続いて二回目の優勝監督になった。彼の指導力には特筆すべきものがある。

その後高松中の攻撃があせりから中央にボールを集めすぎ、庵原中の術中に落ちた感があった。

前半同様、中盤もていねいに継なぎ、サイドからの攻撃を鈴木を中心にやれば同点のチャンスもあったろうにと惜しまれた。

ヨーロッパ遠征写真展

西友清水店で開催！

ヨーロッパ各地で転戦、十戦全勝で帰国した全清水サッカー少年団の記録写真展が、九月二十九日から国鉄清水駅前の、西友清水店で開催されサッカーフアンの話題になっている。

編集ノート

高校サッカー選手権の県予選が開始される季節となった。夏の高校野球予選大会に一歩一歩と近づく出場校の総数は今年も新たに三校が加わり七十校。県下の各地で行われる予選での試合結果が楽しみであるというファンも年毎に増えている。各校イレブンの敢闘を期待したい◆清水少年サッカーリーグも大詰めに入り例年通り次号には、東西両ブロックの優勝チームや、王座決定戦での優勝校が特集される。来月号の紙面を飾るトップの写真が楽しみである◆味覚の秋だねと親しい友人に話しかけたら『値上げの秋だよ』と片付けられた。スポーツの秋だねと話題を切り替えたら『野球も相撲も面白くないね』という。彼は巨人と金剛のファンだったなあと気が付いた私は、彼の盃に値上げの酒をなみなみとついだ。（二本木）

清水サッカーの歴史を綴る！
ユースサッカー
縮刷版
只今発売中
創刊号より第32号
B4版表紙共68頁
¥1,000
郵送の場合は送料共一、二〇〇円
現金書留にてお送りください
静岡県清水市真砂町1－12読売新聞内
ユースサッカー縮刷版編集部
〒424　電話0543（66）5282

第三回全国選抜招待少年サッカー
清水大会12月に開催

ヨーロッパ遠征を記念して本年度大会は全国規模にすることに決定。まずサッカーどころの全国有名チームを招待することになった。

本年度は広島、京都、神戸、浦和、古河、刈谷、甲府を県外から招待の予定で、単独チームでないクラブチームを中心に最強チームを集める企画。

県内からも選抜チームのある地区のみ招待することになっている。

日程は十二月二十六日から三日間の予定で計画されている。

少年サッカーとチームプレー
チームの指揮者は一人で

全国サッカー少年団大会は今年三十三チームが参加して行われ、全清水が優勝したが、今年特にハーフタイムの指示を見せてもらおうと思い、各チームをハーフタイムに訪れてみた。

どのチームも後半に備えてのスピリットを強調、まわりでおかあさんがさかんにおしぼりを与え、子どもはごく当然のようにおしぼりをまた返している場面が多かった。

その中で指導者がかわるがわる順序もなくただ『がんばれ』とか『最後だぞ』とかをいって、いったいだれがチーフコーチなのかわからない集団が多かった。

子どもにとってハーフタイムは後半に対する休養と意志統一が目的であって、大人の楽しむ時間ではないはずである。こんなことでは集中できるはずがない。

私の住んでいる地区にも野球少年団があり朝から夕方おそくまで毎日トレーニングに励んでいるが、どうしたわけか全々強くならない。

私も不思議に思い見ていると、毎日指導者が変っているのである。

ノックを楽しんでいるような指導者もあれば、キャッチボールばかりやらせているコーチと、父兄の代表でつくられているであろう指導者たちが統一した指導方針もなければ指揮もない、子どもはベースボールの楽しさだけでつづいているのであって、集団としての楽しさは生まれていないように感じた。

サッカー少年団も同様、こんなことでは集中力のある子どもは決して育ちはしない。

私は常に全清水ではチーフコーチと相談役以外の人はコーチへのアドバイスはよいが、子どもへのスピーチは一切禁止している。

サッカーがさかんになればなるほど父兄もさらである。

チームの練習を指揮しているチーフコーチが一つの考え方で子どもを育てることこそ、子どもが成長する大原則である。

コーチの集中力なくして子どもの集中力は生まれない。（哲）

PEPSI

興津でサッカー指導者の講習会

興津公民館ではこのたび地区体育振興の一つとしてサッカー指導者講習会を五ヵ月にわたって行うことになった。

講師には日本サッカー協会公認コーチを招き、十月二日より行うことになり申し込みを受けつけている。

特にサッカーの歴史から審判法、少年の指導と巾広いサッカー技術と戦術を中心に、技と講義にわけ七時より九時まで二時間みっちりトレーニングすることになっている。

日ごろコーチングとかアドバイスの方法などの重要性を知らなかった人もこのコースで一人前の指導者にくりあげるのがねらい。

特に興津地区はソフトボールがさかんだっただけに、このスクールによって住民と青少年のサッカーに対する熱が上がることを願いたい。

清水小に夜間照明！

高部小学校につづき清水小学校グランドにもナイター施設が生まれた。

清水小スポーツ育成会（片瀬正美）が中心になり地区、体育会、子ども会の協力を得て作られたもので、工事費は二百万円で一中につぐ明るさ。

九月四日の点燈式には花火をあげての祝賀会の後、一年生から六年生まで全員がナイターサッカーを楽しんだ。

建設の立役者サッカー育成会会長の大塚氏も「こんなに明るくなるとは思わなかった。一週間に一回親もスポーツを楽しむ日をつくり子どもに負けないようにしたい。」と施設の完成を喜んだ。

全清水四年準優勝

第二回つま恋招待サッカーは県下十地区より五年生以下ジュニアチーム十二チームの参加で八月二十六、七日の二日間、緑豊かなつま恋サッカー場で盛大に行われた。

第一日目の予選リーグでは清水五年と四年浜松ジュニアが大勝し予想通りのベスト8入りであった。

富士宮黒田、全静岡庵原、長泉北も苦戦しながらも最終トーナメントに駒を進めた。

準々決勝は浜松ジュニアと浜松選抜と、抽選に恵まれなかった浜松勢も準決では全清水と対戦、全力でぶつかり延長引分けPK戦で5対4で決勝に進出した。

一方決勝に進出した全清水は準々決勝で富士宮黒田を3対0、準決では全静岡を2対0で破り決勝に進出。

決勝では力つき浜松の力に屈し5対0と大差をつけられ準優勝に終った。

今年からヤマハ杯　杉山選手は総指揮

退院したばかりの杉山選手、本部テントの中で若手選手の総指揮。開会式では得点王や優秀選手とかたい握手。記念写真でもひっぱりたこ、痛い腰を引きずりながら各会場を走りまわっていた。

今年からつくられたヤマハ杯の金のカップは値打ちあるもの。三年優勝した場合はワールドカップなみに永久保存が認められる。

まず浜松が一点獲得。

トレーナーはおひま

ヤマハトレーナーの確井氏、小学生ジュニアの試合とあって救急箱を持ち、けががあればいつでもとはり切って（？）いたが、結局けが人なしで手もちぶさた。

運営はヤマハサッカー部の手で

元三菱のエース高橋選手、そして工藤、大村、沢柳、市川、伏見と現在県リーグ圧倒的強さで勝ち抜いている現役選手が全て運営に当たり、記録から審判まで一切をまかなっていたのは見事であった。

第2回　つま恋招待
少年サッカー親善試合

ヨーロッパ遠征記録 ②
雑音に感謝

総監督　堀田哲爾

三十五時間も飛行機にのることになると自然、時差の問題が出て来る。我々はこの時差もトレーニングで克服することを考えねばならない。

なぜならば八月一日に当地に着くとすぐ八月三日には第一戦を予定しているからである。

しかもその相手がドイツ少年リーグのトップクラブのケルンビクトリア04FCである。

七月に入り夜と早朝の練習を中心に考え、明け方四時にも神経が眠らないトレーニングと、もう一つは短時間でも眠れるトレーニングを試みた。

四十名の選手全てがそれらのトレーニングを克服し、五分の休憩時間でも眠れるくらいの集中心が育って来た。

その頃、学校関係や他のスポーツ団体ら、小学生の外国遠征と健康管理面から多雑音が入り出した。

我々コーチ陣はそれぞれに耳を傾け、一つ一つに感謝の気持で聞き、雑音ともいうべき人の心配事が現実に起らないための最大の努力をしてきた。

今ここに成功したことともに、これらの声に感謝したい気持々々の喜びでいっぱいである。

ともするとこれらの雑音を無視して反感的行動に走りがちであるが、我々はこれらの雑音を大切にしただけに全くすべてに指導者育成会が気を配り、安心と声援なの努こそ、の々征か者たい。

▲多くの友だちができた……ハノーバ96の友だちと

全日本ブロック大会にヤマハと清水クラブが

十一月八、九日と行われる東海四県ブロック大会に清水クラブとヤマハサッカーチームの参加が決定した。

特にヤマハは杉山隆一氏の好指導によりメキメキと力をだしており結果が期待できよう。

日本リーグ二部チームもこのブロック大会に参加するため、ホンダチームも出場するので好試合が期待されよう。

特にこの大会優勝チームは十二月末、本大会トーナメントに出場日本リーグ一部と大学選手権一・二位チーム三十二チームの大会に参加でき、勝ち進むと正月元旦に決勝戦となる。

有度一小百周年記念
招待サッカー大会

清水有度一小開校百周年を記念し、近県招待サッカー大会が計画されている。

現在招待予定チームは市外から浜松広沢、焼津豊田、甲府春日、藤枝西益津の四少年団。

市内から有二と清水小の計八チーム。

当日は父兄育成会の招待も考えられ、親子大会となる予定。

期日は十月十九日の開校記念日（日曜日）。

市民大会試合日程表

		責任者
8：00～	ジュニア決勝	押見美知枝
8：45～	女子決勝	斉藤和明
9：40～	5年決勝	鈴木淳生
10：30～	6年決勝	小花公夫
11：20～	中学決勝	小林芳幸
12：20～	地区対抗決勝	杉山幸弘
13：30～	高校決勝	望月英夫
14：40～	育成会対抗決勝	鈴木石根
15：40～	OB対抗決勝	中村祐介

○11時より少年リーグ表彰式を行う。
○OB対抗戦にてOB全清水選手選考会とし，全日本OB大会出場メンバーを決定する。

全清水中学3年刈谷遠征
アメリカAYSOに完勝

八月七日（木）　刈谷運動場於

《第一試合》
対刈谷スクール
13：00キックオフ

3	0—0	0
3—0		

得点者…渡辺　望月博森

雨天時で軟弱なグランド、かつ旅行の疲れもあったが、全員リラックスして初戦をかざった。内容は体力、個人技に勝る全清水が、雨天用の戦術に雑な面がみられ、鋭さも欠くも、佐野、森、守備には大多和、滝のコンビで圧勝した。

《第二試合》
対米国〝AYSO〟
16：00キックオフ

2	1—0	0
1—0		

得点者…森2

体力的には勝るが技術的には未熟なAYSOに対して、全清水は中盤から両ウィングにボールをまわし、ラフプレーに悩まされながらも積極的に攻めた。

森の2本のシュートで決したが、コーナーキックおよびシュートのタイミングをもう一歩早くするなどの工夫がほしかった。

八月八日（金）
《第三試合》
対神戸選抜
13：00キックオフ

1	1—0	1
0—1		

得点者…佐野

前半、佐野のセンターリングが直接ゴールにとび込みリードしたものの、後半にウイングのマークがずれ同点とされた。その後反撃に出たもののシュートの積極性に欠け、惜しいゲームを引き分けた。

八月九日（土）
《第四試合》
対刈谷スクール
10：00キックオフ

6	3—0	0
3—0		

得点者…森2　押見2　佐野　中田

昨日までの反省を生かし、前半から積極的に攻撃して勝負を決めた。下旬に行われる神戸のフェスティバルに備えて、東海大会に出場する庵原中勢を除いてメンバーを組んだが攻撃については終盤でポストプレーをつかう工夫がほしく、守備については、両サイドFBのとるポジションについて、やゝ不安な面がみられた。

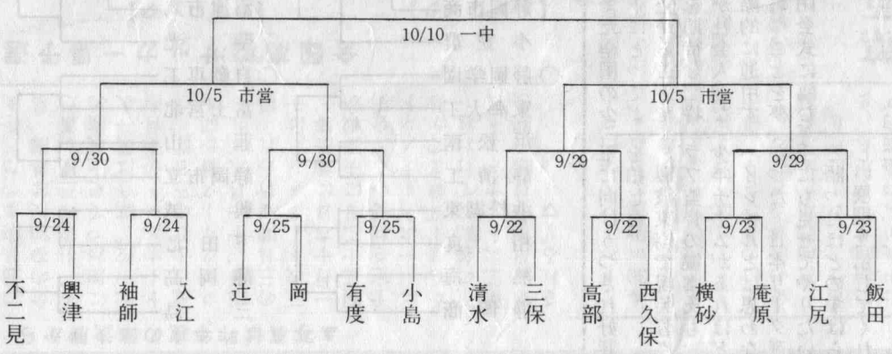
このあと米国〝AYSO〟対全清水のコーチ陣が親善試合を（前半のみ）行った。

攻守にわたり、生徒の手本となるようなプレイが数多くみられた。とくに望月敬治先生（袖師中）の年を感じさせないプレーがグランド中を圧倒し4対0と大勝して帰路についた。

第43回清水市民大会　10/10体育の日
OBと育成会に人気

本年度市民大会サカーも三十年目の大となり、少年から0まで八種目にわたりと力をあらそい合う九月十一日の理事会てその日程が決定したが技B会ッ

市民大会一般の部組み合わせ



'74 ワールドカップ報告FIFA　III

《大会の組織》

世界的な関心をひきおこすW－CUP大会のもち方はつねに反省と点検のもとで開かれる。

サッカーの進歩，コミュニケーション，テクノロジーの進歩，そして社会習慣の変化に応じて適切な修正がなされる必要がある。

ファイナル大会にのぞむチームと観衆はそれぞれの国の国家的関心のもとで増加してきている。多くの人々はよりオープン化された大会，試合を見たいと欲し，それにより最もベストなチームが決勝に進むことを願っている。他にもファイナル大会がより平均化された地域からの代表によって競われることを願っている。

各地域連盟の代表たちが競うことが，世界中からのチームの真の世界チャンピオンの権威と名声を受けるに値いする。そしてそれがサッカー発展のためにもなるという考え方がある。

ナショナルチームのコーチたちは大陸間のベースをもとに本大会出場チームを選んでも良い時期になっていると考え，それにより本当に力のあるチームがファイナルに出場することになるのだと確信している。

ほとんどの試合に負けてしまうようないくつかの弱いチームをファイナル大会では参加させるべきではないという意見もある。この意見はW－CUPファイナル大会は世界のベストチームのチャンピオン大会とすべきであるという考え方である。

未開のサッカー国であるチームの向上を促進するためには他にもよりベターな方法があろう。

1974年のファイナル大会では，成功の全く期待できないチームが参加していたし，また成功の可能性と希望を持つチームもあり，残るのがベスト4に入るのがはっきりしている力を持つチームであった。

1970年のレポートではホストカントリーを含み，ファイナル大会のトーナメントは16チームにするように試合を組むことを助言した。そのためにチームはホーム・アンド・アウエイ方式で予選を行い，14チームを選び出しホストカントリーと前年度優勝国がシードされる。

これには歴史的ないくつかの事情もあり，もしサッカー人口の少い国が勝ったら，そこでファイナル大会に出場することは大きな価値がある。

ザイールとハイチの1974年のファイナル大会出場達成は大きな関心を呼び，これらの国々のサッカーに非常な励みを与えた。しかしまだひとつ期待されることとしてこれらのチームは充分に強いということを示せなかったし，不幸にもグループ予選での決勝ラウンド出場資格決定の要因が，これらのチームからの得点数によって決定づけられたことであった。

このスタディグループの意見は，このことは不満足なことであった。

ここでさらに予選試合の運営組織について大陸間をベースにした予選をすることが，特別の資金配慮が必要だが，とりあげられる。

1974年のW－CUPのトーナメントは4グループに分け，さらに2グループにして決勝進出チームを決定する方式であった。第2ラウンドの2試合だけでは，誰もが決勝進出チームを予想しにくいものであったが，最終チームが予想通りブラジル，オランダ，西ドイツ，ポーランドであった。

残るスウェーデンと東ドイツ，アルゼンチン，ユーゴの試合が決勝進出のために重要さが少しあった。

スタディグループは，さらにファイナル大会での試合運営組織に配慮がなされるべきであったと感じている。

第1ラウンドの4グループがノックアウト・システムで決勝進出を決めるというメキシコ大会の運営より，この新しい方式が良かったかどうかについてはベストチームを決勝に進出させたいと願う人々には好ましいものであったが，よりエキサイティングな試合を好む観衆にとっては，むしろノックアウト・システムの方がよいだろう。1970年に使われたノックアウト方式にもどるチャンスはないのかということについては，やはりディフェンシブなプレイがされる傾向の逆にあったし，1974年の第2次リーグの方式が一試合を失ってもチャンスを残すという点があり，すぐれているように思われる。